

2019 vol.205 OCT

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

手工芸作家の使命

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 花 村 邦 昭



わが国が誇る「ものづくり文化」はＩＣＴの高度活用によるＡＩ時代の到来で、従来の規格品の大量生産体制から、いわば「手づくり」による独自商品の共同開発体制へとこれから大きく変容していくこととなります。部分が活性化することで全体が発展し、全体が活性化することで部分が発展する、そういう相互生成的な多極分散型社会の出現です。これまで「手工芸文化」が担って来たのも実はそういう多元的社会創成へ向けての草の根的な活動でした。現に、「手工芸文化」は日常のさまざまな生活局面に広く深く浸透してわれわれの「生活文化」に豊かな彩を添えると同時に、「日本の伝統文化」から多様に養分を吸収しつつそれを不斷に活性化する働きを通して「ものづくり文化」の重要な源泉となっています。

しかしいま、国民相互を結びつける絆とも言うべき「生きるかたち」は崩れかけ、国民統合の枠組みともなるべき「国のかたち」も見えにくくなっています。国政レベルの諸課題を別にすれば、それをどう再構築・再成形するかはわれわれ国民一人ひと

りが自らの「生活規範」さらには「生活文化」をどう立て直すかの問題でもあります。伝來の「手工芸文化」はそのための大切な役割をこれまで果たして来ましたが、当面する課題はそれを担うことのできる人材をどう育成するかです。

わが「公益財団法人 日本手工芸作家連合会」が東京都美術館で毎年開催する「創作展」はそのためのまたとない人材育成・交流の場となっています。性別・年齢を問わず多様な分野で多彩な活躍をしておられる手工芸作家の皆さんのがんばりの丹精込められた作品が一堂に展示されることで手工芸作家の全国的なネットワークがそこから形成され、それによって各地方・地域の「コミュニティ文化」がさらに発展する機縁ともなっています。

予てより「地方創生」が国家政策の主要な柱の一つに掲げられていますが、各地方・地域で大切に保存・継承されてきた「手工芸文化」を貴重な文化的資源として「生活文化」の発展向上にどう効果的に結びつけるかの方略も当然そこには含まれます。わが「公益財団法人 日本手工芸作家連合会」もその役割の一端を及ぼしながらこれまで担って参りましたが、「生活規範」「生活文化」の根幹が揺らぎつつある昨今だけに、各地に伝わる「手工芸文化」の精髓を後生世代へと正しく着実に伝えていくのはわれわれに課された重要な使命だと改めて痛感いたします。これからもその役割・使命を引きつづき担っていけますよう会員の皆様の変わらぬご支援とご協力を重ねてお願ひ申し上げる次第です。

第52回 創作手工芸展 講評

審査委員長 大 矢 紀 (日本美術院同人)



文部科学大臣賞

「令和の華」藪本一翠

「平面繭」(特殊な養蚕技法によって得られる平らな繭)によって造形された繊細雅美なハマナスの花びら、ヤシの皮を百年前の古墨で塗り固めた雄勁な大幹、力強く大地を掴む数多くの根茎たち、…

まさしく「令和」の御代を寿ぐに相応しい典雅にして豪勢な作品に仕上がっています。

((公財)日本手芸作家連合会会長 花村邦昭)

東京都議會議長賞 「百羽の願い」 石田則子

本作品はこれまで私が経験したことのない感覚に誘われる作品である。何枚もの鶴を重ね、整然と並べられたものである。しかし、作品の前で視線を少しずらすと鶴が一斉に羽ばたくのである。作品の前を通り過ぎる時、静かな会場で、この一点だけがざわざわと飛び回る不思議な作品である。

(共立女子大学名誉教授、

((公財)日本手芸普及協会会長 伊藤紀之)

大妻コタカ賞 「繋ぎ (私の遊佐刺し子

サンプラー)」 佐藤美代

樹木いっぱいに咲き誇る花みずきのみずみずしさ、その光と陰影を、独自の変化に富む幾何学模様の『遊佐刺し子』とパッチワークで、精巧に制作されています。鳥海山の神様に見せる為に考え出されたという文様に息づく、祈りや意義ある伝統を、サンプラーという枠を超え、その土地の空気感と共に未来へ縫い繋いでいる秀作です。 (女子美術大学 非常勤講師 山下ちかこ)

日本手芸作家連合会会長賞

「日本の伝統美」 渡邊延江

4年もの永い日時をかけて丹精込めて作られた精巧な樹脂粘土細工です。端午の節句、雛祭り、家族そろっての年中行事、そのときどきに作られる料理の数々、…楽しい思い出がいっぱい詰まったこれらの作品群は「日本の伝統美」そのもの、われわれ共通の「魂のふる里」です。

((公財)日本手芸作家連合会 会長 花村邦昭)

審査委員長賞

「花露の輝き そして芳香」 栗倉香代

今年の審査委員長賞にはビーズ織りのすばらしいバッグを出品された京都市の栗倉さんの作品が選出された。大ぶりなその作品は神経のゆきとどいた白っぽい地色をベースにビーズを横糸に使い全体に丸みのある立体感のある品格の作品に仕上っている。バッグ内も丁寧な仕事をしている。

((公財)日本美術院同人、

((公財)川崎市文化財団理事 大矢 紀)

奨励賞は4点でバラエティーに富んでいる。手塚慶子さんの作品「青いバラ」はとにかく色感が素晴らしく美しい。土門コトさんの「北前船」は日本海を舞台に産物、文化を各地に流通させた姿を見せ、南里芽依さんの「松竹梅」は緑、赤、黄の帶に爽やかに図柄もシンプルに、若人らしく好感が持てる。大木美津江さんの「桜・宇宙に咲く」は大きく二色に陽と陰に分け爛漫と咲く桜花を丁寧に仕上げている。

佳作は3点で福田桜さんの「ノアの森」は森の中の動植物がとにかく楽しく、渡邊耕雲さんの「あらたな絆」は古い材木を、すばらしい茶道具に仕上げ木肌が美しくほれぼれする作品である。有賀万里子さんの「5月のバラ」は菱形の中に椿の様な立派なバラの花を配置して意表をつく。

技術賞は5人で甲乙つけがたく、この人達がいる事で会が引き締まっている。池田節子さんの「陽春」は染色で美しく現代を感じさせる。内田桃子さんの「波」は染から刺繍まで華やかな様でシックな和服に仕上がり、松本志津美さんの「ナチュラルに」はロングドレスを渋いブラウン色で見せ縦の線が美しい。松岡たか子さんの「キュウブ」はボビンレースを使い黄金色の布地に形とデザインで優雅なバックに仕上げ、三枝誠治さんの「哀愁」はガラス工芸で巨象の後姿をもの哀しく技術で見せた。

新人賞は大屋圭子さんのエッグアートによる「夢想花」で本当にこれが卵かと思わせる芸術品に仕上げた。

特別賞は17点で青木悦子さんの「道以拙成」をあげたい。他皆さん頑張った作品である。

(全作品は図録に掲載)

奨励賞 「松・竹・梅」 南里芽依（学生）

帯三本、各色に幾何学模様を中心に、日本刺繡の技法で表現された伝統的「松竹梅」のおめでたい吉祥文を拝見して、その柔軟な発想力と、基盤の正しい技術力、色彩豊かにデフォルメされた抽象的な内にもリアル性に富んだ表現力に、生命力や生き様の活力がみえ、将来への展望が期待できます。

（和洋女子大学名誉教授、

（公財）日本編物手芸協会理事長 櫻井映乙子）

技術賞 「波」 内田桃子

はんなりとした薄紫の地に同系色の濃淡で波文様と伊達紋を刺繡であしらった上品な作品。刺繡作家とはいえ、白生地の地染から繡糸の糸染まで一人でこなす作家は稀であろう。平繡・組繡・駒繡などの精緻な繡の技に加え、地染・

（漆芸作家、香川漆芸研究所・

糸染のこだわりが作品全体を統一感あるものにしている。紫は五倍子の浴染と聞く。

（日本女子大学名誉教授、

東京国立博物館客員研究員 小笠原小枝）

新人賞 「夢想花」 大屋圭子

素地は、オーストリッチとエミューの卵殻を用いて形成されたエッグアートである。表面には、花鳥のデコパージュや画と薄貝で表現され、黒と装飾金具が貝の輝きを更に引き出している。器物局面に合せた貝には、細かいひびが意図的に入れられ、密着させてあり、技術的な高さを感じさせてくれる。用と美を兼ね備えながら、東西の文化の融合を醸し出した不思議な雰囲気を持つ作品である。

（漆芸作家、香川漆芸研究所・

石川県立輪島漆芸技術研修所講師 田口義明）

第52回創作手工芸展 受賞作品



文部科学大臣賞

「令和の華」

藪 本 一 翠

この度は、文部科学大臣賞を賜り誠にありがとうございました。受賞作品「令和の華」は、はまなすの花と葉を平面繭で作り優雅さと纖細さを表現し、幹は古木に100年以上前の墨を塗り力強さと伝統美を表現しました。平面繭とは新潟県村上市「朝日村まゆの花の会」が発案・研究してきた秘蔵の繭の一つです。この出会いは、市の要請を受けて地域おこし協力隊に参画した細井幹子様から花のアレンジメント講座を依頼されたことになります。時は移り令和の時代を迎えました。偶然にもハマナスが雅子皇后のお印と符合したことは、二重の慶びでございます。審査員の先生、（公）日本手工芸作家連合会役員の皆様に感謝申し上げます。



東京都議会議長賞

「百羽の願い」

石 田 則 子



大妻コタカ賞

「繋ぎ(私の遊佐刺し子サンプラー)」

佐 藤 美 代



審査委員長賞

「花露の輝き そして芳香」

粟 倉 香 代



日本手工艺作家联合会会长賞

「日本の伝統美」

渡邊延江



奨励賞
「青いバラ」
手塚慶子



奨励賞
「松・竹・梅」
南里芽依



奨励賞
「北前船」
土門コト



奨励賞
「桜・宇宙に咲く」
大木美津江



佳作
「ノアの森」
福田桜



佳作
「5月のバラ」
有賀萬里子



佳作
「あらたな絆」
渡邊耕雲



新人賞 「夢想花」 大屋圭子

この度は新人賞を頂き、ありがとうございました。

エッグアートに惹かれて、筒井真喜子先生の下で沢山の技法をご指導いただいたことに深く感謝申し上げます。

今後も向上心を持ちながら、エッグアートを楽しみ新たな作品作りに励みたいと思います。



学生賞
「初天神」
岩田泰子

第52回創作手工芸展の開催並びに授賞式・懇親会

●第52回創作手工芸展の開催並びに授賞式・懇親会のご報告

第52回創作手工芸展は、令和と改元された最初の月である5月29日(水)の午前9時半から執り行われた開会のテープカッティングを皮切りに、途中6月3日(月)の休館日を挟んで6月4日(火)の最終日までの6日間、いつもの東京都美術館のギャラリーCにて盛大に開催されました。

今回の作品応募者数は88名、その応募作品総数は94点に及び、期間中それらの力作を鑑賞するために会場にお見えになったご入場者数は前回実績を2千名近く上回る5,434名に達するなど、大変な盛り上がりとなりました。

その背景には、応募作品のレベルが年々高まりを見せ、地下一階にある会場受付へと向かう下りのエスカレーターから一望できる会場の雰囲気が例年にも増して精彩で華やかな印象を放っていたことが、お見えになられたご来場者のお気持ちをとらえて離さなかった点にもよく反映されていたように思います。

そんな中、6月1日(土)の午前11時半から上野公園内のレストランにおいて授賞式がとりおこなわれ、文部科学大臣賞1、東京都議会議長賞1、大妻コタカ賞1、日本手工芸作家連合会会長賞1、審査委員長賞1、奨励賞4、佳作3、技術賞5、新人賞1、特別賞17、学生賞1の皆様並びに入賞者の皆様への表彰が挙行されました。

その後ご来賓を代表されてディー・エム・シー株式会社代表取締役社長の小山田光晴様からのご挨拶と、審査委員長の大矢 紀先生からの審査ご講評を拝聴。最後に受賞者を代表して文部科学大臣賞の栄に浴されました東京都の藪本一翠様からお礼と感謝の言葉が述べられて、授賞式は閉幕となりました。

引き続き午後1時からは別室にて和やかな懇親昼食会に移行し、各テーブルごとに作品制作の苦心談や来年への新たな誓いを交歓しあい、次回の第53回展での再会を誓い合って和気あいあいのうちにめでたくお披瀬喜となりました。

●チャリティーバザーの報告



チャリティーバザー風景

令和元年5月29日(水)～6月4日(火)開催の「第52回創作手工芸展」に於いて、当連合会有志により同時開催されましたチャリティバザーは、今年も大盛況のうちに終了いたしました。ご参加、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。売上金の一部を北海道厚真町に災害義援金として寄付致しました。今後も継続してまいりますのでご協力お願いいたします。また、当連合会へも寄付できましたことはこの企画の目的でもあり主催者一同大変喜んでおります。今後も継続してまいりますのでご協力お願いいたします。

●第2回作品展示チャリティ即売会のお知らせ 会場“京橋越前屋ビル8階”

開催日時 2020年1月11日(土) 11:00～16:00
12日(日) 10:00～13:00

今回の機関誌Vol205に、販売作品応募用紙を同封致します。

販売会は昨年に引き続き、本展作品はじめ作家所蔵の刺繡・刺し子など多種多様な手工芸はじめ、可愛い小物も出品される予定です。皆様の出品参加と当日のご来場、ご協力をお願い致します。

*今年も売り上げの一部を被災地へ寄付させていただきます。



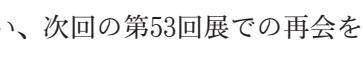
授賞式風景



懇親会風景



ギャラリートーク
審査委員長 大矢紀先生



第1回 チャリティ販売会

第52回 創作手工芸展 特別出品

● 「特別作品」

今回「特別作品」として身の回りの方の思い出の手工芸作品を募集し、昭和の時代に丁寧に想いをこめて制作した下記掲載写真のとおりの貴重な作品が展示されました。

写真上段の3つは、母・子・孫 それぞれの個性、優しさ、温かさが伝わる作品です。そしてその手仕事を大切に想う出品者の気持ちも伝わります。下段左の女学校の裁縫の課題は、小さな雛形作りにひと針ひと針懸命に向かい学ぶ女学生の姿が思い浮かびます。中央の2つの作品、昭和初期の満州の作品展へ出品された立派な日本刺繡の帯と、その展示会場の写真に惹きつけられました。下段右のビーズバッグは家族と自身のため、それに合うデザインを考え、長い時間をかけ制作した素敵な作品です。

時間が経過しても色褪せないひとの想い、手仕事をならではの美が伝わる展示でした。



● 「特別展示」 MORA(モラ)

第52回展に特別展示いたしました17枚のモラは、1978年から3年半ご主人の仕事の関係で南アメリカのコロンビアに駐在していた女子美術短期大学の卒業生が、1981年頃パナマ共和国のコンタドール、カリブ海に浮かぶコロンビア領のサンアンドレス島へ何度か行き収集したものの一部を公益財団法人日本手工芸作家連合会へ寄贈いただいたものです。多くの力作とともに展示されたモラは会場に心地良く調和し、入場者の皆様に興味深く見て頂くことができました。中には以前パナマを訪れた際モラに出会った事があり、素朴で楽しい作品との思わぬところでの再会を懐かしむ声も聞こえました。

(技法) モラとはパナマ共和国クナヤラ地区（旧称サンプラス）に住むクナ族の女性が身につけている民族衣裳のブラウスのこと。ブラウスに施された多重アップリケ刺繡そのものもモラと呼ぶ、パナマの先住民アート。何枚かのカラフルな布地を重ね合わせ、その形を小さなハサミで穴をあけ形をくりぬくように切り、布地を折りながらその色に合った糸でくけるように5～6枚重ね縫いする。

参考図書・MOLA サンプラスの芸術 檜枝茂信 著（求龍堂）

・MOLA ART モラのカラー図鑑 著者 宮崎ツヤ子・丸地貞男・宮崎理絵（Parade Books）



会員だより

● ポタリーペインティング特別講習会を終えて

一本場オランダよりマスターペインターのディアナ先生をお迎えして—

東京都 大塚昌子（生活工房Madre）

会期2018年9月29日(土)・30日(日) 会場 東京都国立市 池田ビル3F

日本にはオランダの伝統工芸「デルフト焼」ポタリーペインティング（陶器の絵付け・ブルー一色）を教える先生がいなく、本場で学びたいと言う思いが強くなり、単身オランダに出向きディアナ先生と出会い20年が経ちます。そして学び、日本で教室を開き作品展も数多く開催しています。恩師ディアナ先生からも認めていただいておりますが、まだまだ精進すべく、時には生徒さんと一緒にオランダに出向いて学んでおります。このような講習会は近年、4年に一度先生をお招きして本場オランダならではの技術を直に学ぶ事ができる貴重な講習会を東京都国立市で開催しており、伝統的な図柄を継承しつつその中でも新感覚の開拓に励んでおります。

今後も続けて啓蒙していきたいと思っております。



特別講習会風景



ディアナ先生と
大塚先生

● ポタリーペインティング作品展

テーマ 「akari」

東京都 大塚昌子（生活工房Madre）

会期2018年11月15日(木)～20日(火)

会場 東京都国立市 コートギャラリー国立



会場風景

● ボビンレース展 Smile&Love 教室合同展示会

主催 富澤千寿

会期2018年9月11日(火)～17日(月) 会場 北海道札幌市資料館

20数年前に、我が家で一人の生徒との小さな作品展から始まり、昨年で13回目、準備段階から、こんな豊かな展示会が出来る日が来るとはと、心の奥で幸せをかみ締めていたところに大きな震災が…。

無事に開催し会期を終える事ができた事は本当に感謝でした。多くの方が大変な思いをされている中、心中複雑でしたが、こんな時こそ美しい物を見る時間が大切とも言って頂き、救われる想いででした。展示会で2年に1度だけお会いする他の教室の生徒さん達に、元気と刺激を貰い、皆が又、新たな気持ちで日常に戻ります。

さて来年は、ハート・星・灯りがテーマ、50個の小さな温かい明かりを点すその先には…。



会場風景



展示風景

● シャドウボックス教室作品展

千葉県市川市 石田則子

会期2019年3月13日(水)～31日(日)

会場 順天堂東京江東高齢医療センター

● ハーダンガー刺繡 「第12回薬師が丘作品展」

広島県広島市 原田泰子教室

会期2018年11月11日(日)～11月18日(日) 会場 薬師が丘第一集会所

●遊佐刺し子教室 展示会と体験教室

山形県飽海郡遊佐町 土門玲子

- 1 国際フォーラムしづくい会議 展示会と体験教室
会期2018年7月8日(月)～7月11日(水) 体験参加者48名 会場 山形市 文翔館
- 2 イギリス グレート ノーザン キルトショー参加
「遊佐刺し子に遊ぶ」遊佐刺し子とパッチワーク コラボ展示会
会期2018年8月31日(金)～9月2日(日) 体験参加者80名
会場 ハローゲート
- 3 イギリス ハローゲート ワールド テキスタイルデー
会期2018年9月8日(土) 体験参加者40名 会場 ムンド
フォード・ビレッジホール
- 4 オーストリアからの体験来町
会期2018年12月9日(日)・10日(月)
会場 山形県飽海郡遊佐町 にぎわい創造館



4 体験風景 新聞掲載

●「花とのめぐりあい」40周年記念祝賀会

東京都 片山理恵子

リビエールは今年、設立40周年を迎えました。

「リビエール」はフランス語で「川」を表しています。これまでたくさんの想いと出会いが集まって、小さくても豊かな流れを作つて来ることができました。それを感謝して、梅雨が明け青空となった7月25日、赤坂クラシックハウスにて祝賀会を催しました。(写真②)

出席者104名の盛大な会は、華やかさと落ち着きのある和やかな会となりました。共に協力し過ごしてきた時間は、イギリス・オーストリア・オランダ・イタリア・日本と国は違つても人の想いは同じ、暫し立止まってこれまでの40年を振り返りこれからのように希望を託すことが出来ました。

40年の歩みはすべて作品を通して、スクリーン上で音楽と共に紹介しました。

気品ある洗練された美を求める(ELEGANCE)、原点を知り、そして創る(RESEARCH)、それは人・自然がもつ情熱(POWER)から端を発し、追求・融合する悦び(EVOLUTION)に満たされたもの。この流れは技術の修得に加えてそれぞれが共有してきたものでした。

展示会では「私の薔薇が咲く」というテーマのもと、卒業作品をはじめ学習した技術を使ってデザインした作品が並びました。展示会のテーマはバラの花だけではなく『わたしにとっての存在を表す薔薇』を意味した内容となりました。各自の力作が40周年の会を充実した物へと昇華させ、これはまさにリビエールの「エヴォリューション」=追求 融合 悅びに繋がります。

写真①参照：図録の表紙「薔薇の木」は列席者104名が当日咲かせたもの。

イタリア大使館から「イタリア発 フィリグライナ」に、オーストリア大使館商務部から「シェーネアルバイテン 20の花とスタイル集」の小冊子にそれぞれ「後援」をいただきました。
(写真③)

現地調査、文化融合の結果生まれた独自の作品を評価された歓びに満たされます。

笑顔に満たされたパーティーの終わり

「滔々としたリビエールの流れは永遠に続く」ようにと、再会を誓つて幕を閉じました。

写真①



図録表紙「薔薇の木」

写真②



祝賀会風景

写真③



○手工芸と脳の働き

公益財団法人日本手工芸作家連合会評議員
(安方クリニック)

藏 方 宏 昌



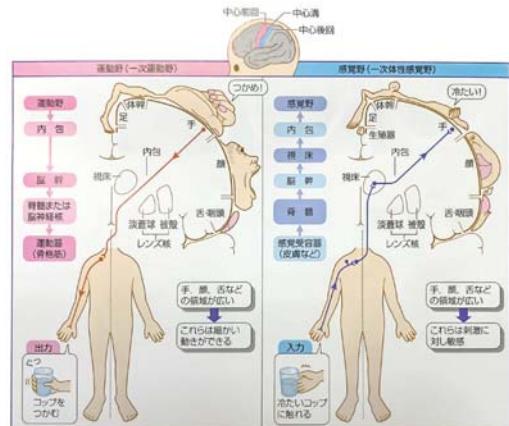
平成29年(2017)9月25日NHK総合テレビ「あさイチ」で「ちょっと刺しゅう」という番組を放送していた。その中で注意をひいたのが「豊島岡女子学園」の行事である。進学校である同校では、授業前に生徒たちが「運針」で集中力を養っているという。この教育は70年前から行なわれているというが、進学校で行なっているのはどういう効果があるのだろうか。

カナダの脳神経外科医ワイルダー・グレイブス・ペンフィールド(1891~1976)は、大脑の外側表面にある大脑皮質を電気刺激して体の動きと感覚をしらべた。そして身体各部の運動と感覚を司る脳地図を作った。(図・医療情報科学研究所編『病気が見える vol・7 脳・神経』第二版 メディックメディア 平成30年)

その結果、手と顔(特に口)を司る部分が一番多くの面積を占めることが明らかになった。手と顔が占める面積はそれぞれ25%以上ある。大脑皮質の中央部に中心溝という部分があり、その前にある「中心前回」に運動の実行を指令する「一次運動野」がある。ここでは動かしたいと思う身体部分(四肢・顔・体幹・舌など)を動かす(随意運動)指令が出る。この指令は骨格筋に伝えられ身体各部を動かす(図の左側)。この時、中心前回の大脳皮質から出る神経伝達物質がドパミン(ドーパミン)である。ドパミンは身体の運動だけでなく、意欲(やる気)や学習効果の上昇などを引き起す。中心溝のすぐ後に、「中心後回」と呼ぶ部分がある。中心前回と接していて、身体各部の感覚を司る「一次体性感覚野」となっている。ペンフィールドはここも電気刺激して「一次体性感覚野の脳地図」を作った(図の右側)。ここでも運動野と同じように、手と顔の面積が多い。手は人間にとって物を作ったり、探ったりするのに敏感であることを示している。触覚の検査で一番敏感なのは手の指先であり、次いで顔、足、体幹の順になるという。指の敏感度は中指、人差し指、親指、薬指、小指の順である。(久保田 競『手と脳 脳の働きを高める手』 紀伊国屋書店 1989年)

手で細かい仕事をすることは手の感覚を敏感にさせることになる。

授業前に運針などの手工芸をすることは大脳皮質の広い部分を刺激し、ドパミンの分泌を高め、学習効果を高める良い方法である。



【略歴】東京都大田区生まれ 昭和大学医学部医学科卒 産婦人科助手 厚生年金病院産婦人科医長を経て安方クリニック開設現在に至る。順天堂大学医史学研究室入室 医大で医学史、看護学部、医療専門学校で医学概論、外科学を講義。学会活動多数。医療関係、鐘馗像、カルタ等多くの資料収集、群馬県医師会資料館・津和野町立旧畠迫病院展示室へ展示資料提供・監修を行っている。

●教室・会員 作品展のご案内

- ①「21世紀アート ボーダレス展 JAPAN」あだち三和子のエッグアート展示
会期2019年11月28日(木)～12月7日(土) [12月3日(火)休館] 会場 国立新美術館 展示室3A
- ②福岡梅支部(刺繍)「第27回 創作手工芸 梅支部展」
会期2019年10月16日(水)～20日(日) 会場 福岡県NHK福岡放送センタービル NHKギャラリー
- ③第28回創作手描友禅「猪股洋子と華の会」作品展
会期2019年10月24日(木)～26日(土) 会場 岡山県倉敷市倉敷物語館
- ④3-Dの魅力 シャドーボックス仲間展 石田則子 アトリエReoアート
会期2019年11月7日(木)～10日(日) 会場 千葉県市川市 木内ギャラリー
- ⑤遊佐刺し子 土門教室 オーストラリアから体験来町 土門玲子
会期2019年12月8日(日)・9日(月) 体験参加予定15名 会場 山形県飽海郡遊佐町 にぎわい創造館

●講習会

公益財団法人 日本手工芸作家連合会では手工芸に関する調査研究、知識・技術の普及、向上を目指した教育活動を目的として講習会を年10回行っています。毎月第2土曜日（1月5月8月を除く）は東京駅近くで交通の便が良い京橋越前屋ビル8Fです。1月は浅草橋のクロバー東京営業所で行われ、各回、講師、参加者ともに和気あいあいとした雰囲気の中で、オリジナル作品制作を楽しんでいます。皆様どうぞお気軽にご参加ください。(申込みは当連合会事務所迄)

2018年10月～2019年9月 講習会

第5回10/13(土) リボン刺繡 講師 嶺本文江	第6回11/10(土) シルクパールネックレス 松本志津美	第7回12/8(土) クラフト正月飾り 池田節子	第8回1/21(月) スウェーデン刺繡 濱田昌世	第9回2/9(土) 羊毛フェルト 福田りお	第10回3/9(土) ポタリー 大塚昌子
---------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	----------------------------



2019年度

第1回4/13(土) カルトナージュ 講師 神山康子	第2回6/8(土) スマッキング 松本志津美	第3回7/13(土) 欧風刺繡 崎村倭文子	第4回9/14(土) シャドーボックス 石田則子
----------------------------------	------------------------------	-----------------------------	--------------------------------



第3回講習会風景

●2019年10月～2020年3月講習会予定

第5回 10月12日(土) 中止(台風のため)		
第6回 11月9日(土) 佐久間 恭子 コットンボールモコモコXmasリース		京橋越前屋ビル8F
第7回 12月14日(土) 池田 節子 クラフト正月飾り		京橋越前屋ビル8F
第8回 1月20日(月) 濱田 昌世 タティングレース		クロバー東京営業所
第9回 2月8日(土) 福留 理恵子 スタンプワーク		京橋越前屋ビル8F
第10回 3月14日(土) 大塚 昌子 ポタリー		京橋越前屋ビル8F

事務局だより

●(公募)第53回創作手工芸展のご案内

会期：令和2年5月29日(金)～6月4日(木) (6月1日(月)休館日)

会場：東京都美術館 ギャラリーC

募集期間：令和2年2月17日(月)～5月9日(土)

・ギャラリートーク開催：5月31日(日) 13:30～14:00

「チャリティーバザー」を会期中、同時開催いたしますので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

●資格取得のおすすめ

当連合会は、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育としての資格認定・免状授与を行っております。資格取得後は手工芸セミナーの指導者、社会教育における中学校・高等学校での指導者、生涯教育における指導者などの派遣を通じて、さまざまな手工芸分野で活動し、技術の向上に貢献しております。また、支部・教室で技術を習得することもできます。資格取得は生涯学習の宝です。

●資格免状取得者

資格名	資格者氏名	科 目	資格名	資格者氏名	科 目
普通科	福田 桜	シャドウBOX	高等科	吉田 真理子	フラワーデザイン
普通科	吉田 真理子	フラワーデザイン	高等科	船崎 里美	フラワーデザイン
普通科	船崎 里美	フラワーデザイン	高等科	吉田 麻利子	フラワーデザイン
普通科	吉田 麻利子	フラワーデザイン	高等科	加藤 理香	ハーダンガー刺繡
普通科	加藤 理香	ハーダンガー刺繡	高等科	内田 亜由美	ハーダンガー刺繡
普通科	内田 亜由美	ハーダンガー刺繡	講師	丸山 曜瑛	フラワーデザイン
高等科	福田 桜	シャドウBOX	講師	福留 理恵子	英國ジャコビアン刺繡

●新入会員紹介 (平成30年10月～令和元年9月、敬称略、17名)

柏原 知子(埼玉県) 安藤 範子(埼玉県) 島 麻子(埼玉県) 大屋 圭子(新潟県)
日暮 尚子(東京都) 久野アユ子(神奈川県) 野村 彩子(福岡県) 川端 和詠(東京都)
吉田真理子(東京都) 関谷 春江(埼玉県) 船崎 里美(埼玉県) 吉田麻利子(埼玉県)
鬼塚 光子(神奈川県) 藤本 一翠(東京都) 亀山 実希(千葉県) 粟倉 香代(京都府)
加藤 理香(広島県)

●令和元年度ご寄附者 2019年4～9月(50音順・上：団体／下：個人、カッコ内は寄附金口数：5千円単位)

第52回創作手工芸展チャリティ有志(20)(敬称略)

青木悦子、池田節子、内田桃子、江田弓子とシルバー人材センターの方、粕谷弘美、神山康子、
佐久間恭子、櫻井純子、田村紀子、富澤千寿、土門玲子、原田泰子、深谷由美子、松岡たか子、
松本志津美、真山典子、三浦かすみ、召田晃子、渡部晶子、渡邊耕雲

石井とめ子様(10)、匿名(70)

(ご芳志をいただきまして厚く御礼申し上げます)

●次回発刊 SOUSAKU 206号は令和2年10月を予定しています。
会員の皆様の活動状況を掲載しますので、8月末までにお知らせ下さい。

●表紙作品：藤本一翠 「令和の華」
(第52回創作手工芸展 文部科学大臣賞受賞)

編集後記 -----

当連合会の運営は会員の皆様からの会費、ご寄附により支えられています。手工芸の世界に関わっている皆様、愛好家の皆様、これからもご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

発行日／2019年10月吉日
発行／公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-6-10
MOビル 407号室
TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140
E-mail:info@syukogei-sakka.or.jp
URL http://www.syukogei-sakka.or.jp/